

## ～教科・領域のポイント～

## 【特別活動】

## 1. 学習指導要領改訂のポイント

### (1) 特別活動の課題

○特別活動において育成することを目指す資質・能力の視点

特別活動は「なすことによって学ぶ」ことを方法原理とし、各学校において特色ある取組が進められているが、①各活動・学校行事において身に付けるべき資質・能力は何なのか、②どのような学習過程を経ることにより資質・能力の向上につなげるのか、ということが必ずしも意識されないまま指導が行われてきた。

○内容の示し方の視点

①内容や指導のプロセスの構造的な整理が必ずしもなされておらず、②各活動等の関係性や意義、役割の整理が十分でないまま実践が行われてきた。

○複雑で変化の激しい社会の中で求められる能力を育成するという視点

①社会参画の意識の低さが課題となる中で、自治的能力を育むことがこれまで以上に求められているということ、②キャリア教育を学校教育全体で進めていく中で特別活動が果たす役割への期待が大きいこと、③防災を含む安全教育や体験活動など、社会の変化や要請も視野に入れ、各教科等の学習と関連付けながら、特別活動において育成を目指す資質・能力を示す必要があること。

### (2) 改訂の基本的な方向性

○指導する上で重要な視点

- ・特別活動は、様々な構成の集団から学校生活を捉え、課題の発見や解決を行い、より良い集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。
- ・活動の範囲は学年、学校段階が上がるにつれて広がりをもっていき、そこで育まれた資質・能力は、社会に出た後の様々な集団や人間関係の中で生かされていくことになる。
- ・特別活動の特質を踏まえ、これまでの目標を整理し、指導する上で重要な視点として、①「人間関係形成」、②「社会参画」、③「自己実現」の三つとして整理した。

○特別活動において育成することを目指す資質・能力

- ・「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点を踏まえて特別活動の目標及び内容を整理した。
- ・①学級活動、②児童会・生徒会活動、③クラブ活動 ※小学校、④学校行事を通して育成する資質・能力を明確化する。

○内容

- ・自治的能力や主権者として積極的に社会参画する力を重視するため、①学校や学級の課題を見だし、よりよく解決するため、話し合って合意形成し実践することや、②主体的に組織をつくり、役割分担して協力し合うことの重要性を明確化する。
- ・小学校から高等学校まで教育活動全体の中で「基本的・汎用的能力」を育むというキャリア教育本来の役割を改めて明確にするなど、小・中・高等学校のつながりを明確にする

### (3) 内容の改善・充実のポイント

#### ○学級活動

- ・小学校段階から学級活動の内容に「(2) キャリア形成と自己実現」を新たに設けた。
- ・中学校において「(1) 学級や学校づくりへの参画」の指導の充実を図るため、(2)、(3)の内容を、各項目の関連に配慮して整理した。
- ・学習の過程として、「(1) 学級や学校の生活づくりへの参画」については、集団としての合意形成を、「(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」及び「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」については、一人一人の意思決定を行うこととした。
- ・総則において、特別活動が学校教育全体を通して行うキャリア教育の要となることが示されたことを踏まえ、キャリア教育に関わる様々な活動に関して、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につながったり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこととした。また、その際、児童生徒が見通しを立てたりふり返ったりするための教材等を活用することとした。

#### ○児童会活動・生徒会活動

- ・内容の(1)を「児童会・生徒会の組織づくりと児童会活動・生徒会活動の計画や運営」として、児童生徒が主体的に組織をつくることを明示した。
- ・児童会活動・生徒会活動における異年齢集団交流、児童会活動・生徒会活動におけるボランティア活動等の社会参画を重視することとした。
- ・小学校では、運営や計画は主として高学年の児童が行うこととしつつ、児童会活動には、学校の全児童が主体的に参加できるよう配慮することを示した。

#### ○クラブ活動

- ・従来に引き続き、同好の異年齢の児童が共通の興味・関心を追究する活動であるとした上で、児童が計画を立てて役割分担し、協力して楽しく活動するものであることを示した。

#### ○学校行事

- ・小学校における自然の中での集団宿泊活動、中学校における職場体験等の体験活動を引き続き重視することとした。
- ・健康安全・体育的行事の中で、事件や事故、災害から身を守ることについて明示した。

### (3) 学習指導の改善・充実のポイント

- ・特別活動の深い学びとして、児童生徒が集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組む中で、互いの良さや個性、多様な考えを認め合い、等しく合意形成に関わり役割を担うようにすることを重視することとした。
- ・小学校、中学校ともに、学級活動における児童生徒の自発的、自治的な活動を中心として、各活動と学校行事を相互に関連付けながら、学級経営の充実を図ることとした。
- ・いじめの未然防止等を含めた生徒指導との関連を図ること、学校生活への適応や人間関係の形成などについて、主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、個々の児童生徒の多様な実態を踏まえ一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリングの双方の趣旨を踏まえて指導を行うことを示した。
- ・異年齢集団による交流を重視するとともに、障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習など多様な他者との交流や対話について充実することを示した。

## 2. 授業づくりのポイント

### (1) 学級活動における指導上の留意点

《(1) 学級や学校における生活づくりへの参画》

- 年度当初のオリエンテーリング等で、話合いのルールを確立し、徹底する。
- 児童生徒にとって、切実感・必要感のある議題を選定する。
- 集団決定の仕方を想定し、決定事項に対して学級の一員として責任を持たせる。
- 話合いを進めやすい隊形を工夫する。
- 教師の助言のタイミングや児童生徒の意見に対する価値づけを工夫する。
- 教師が事後の活動を見届け、次への活動意欲を高める。
- 児童生徒に任せることのできない事項を明確にして、条件設定をする。

《(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全、(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現》

- 年間指導計画に基づいて授業設計を行う。
- 児童生徒が主体的に活動する場面では、話合いの活動形態を工夫する。
- アンケート調査などを活用し、学級全体で問題意識を共有する。
- 集団で多様な意見を引き出し、一人一人の自己決定に結びつけるための工夫をする。
- 実践化のために日常生活とのつながりを持たせる。また、家庭との連携を密にする。

### (2) 学級活動の活動例

	(1) 学級や学校における生活づくりへの参画	(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
事前の活動	<b>【問題の発見・確認】</b> ①議題の収集・発見 意見箱、生活記録ノート、学級日誌や教師の投げかけ等から議題を見つける。 ②議題の選定 議題案を計画委員が集約し、話し合うべき議題を学級全員で選定する。 ③計画の作成（計画委員等） 提案理由を練り上げ、話合いの柱、役割分担、資料等を検討し、本時の活動計画を立てる。 ④問題の意識化 学級全体の意識を高めるために、帰りの会等で事前に連絡し、自分の考えをまとめさせる。	<b>【問題の発見・確認】</b> ①議題の確認 指導計画、日常の観察等から課題を見つける。 ②題材の決定 個々の児童生徒が共通に解決すべき課題として題材を決める。 ③計画の作成 発達段階に応じて、児童生徒の自主的な活動を取り入れる。 活動テーマ、テーマ設定の理由、活動方法、資料等を検討し、本時の活動計画を立てる。 ④問題の意識化 学級全体の意識を高めるために、帰りの会等で事前に連絡し、自分の考えをまとめさせる。
本時の活動	<b>【解決方法の話合い・決定】</b> ～集団討議による集団決定～ 提案理由の理解 ↓ 集団討議（意見の交換をする） ↓ 集団決定（多様な意見を生かした合意形成）	<b>【解決方法の話合い・決定】</b> ～集団思考を生かした自己決定～ 問題の状況や原因の把握 ↓ 集団思考（解決や対処方法を共に考える） ↓ 自己決定（自分としての解決方法・めあて）
事後の活動	<b>【決めたことの実践・振り返り】</b> ・集団決定したことを元に、学級全員で協力をしてみんなで実践する。 ・活動の成果を振り返り、新たな課題等を整理し、評価する。	<b>【決めたことの実践・振り返り】</b> ・自己決定したことをもとに、一人一人が実践する。 ・実践の成果について振り返り、新たな課題等を整理し、評価する。